

# MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

# 4

April | 2026

高橋FPの社長が知りたいお金の話

経営への備えとしての終身保険

海外経営者列伝

ジュリー・スウィート

データと画像で考える、未来の世界

AI時代の重要鉱物供給リスク

4月の主要経済カレンダー

金融政策決定会合、米FOMC、ECB理事会ほか

マネークリップ

何もしないリスクを意識する

アジアの世界遺産

古都ビガン



写真:ロイター/アフロ

不安定な世界情勢

## 改めて考えたい、地域分散

2026年に入り、様々な地域紛争をニュースで見る機会が増えている。今月は投資先の地域について少し考えたい。

ニュースでミサイルの飛び交う様子や兵士の姿を見る機会が増えてきた。中東では、米国とイスラエルによる対イラン攻撃が始まり、情勢が激化している。南アジアではパキスタンとアフガニスタンの衝突。東アジアでは、台湾を巡る問題がもはや「定期的な話題」として扱われるようになった。

個別の出来事についての言及は、本稿では行わない。投資家にとって重要なのは、「同時多発的に不確実性が存在する状態」が続いている点だろう。世界はもはや、安定し

た平時と一時的な混乱を行き来するというより、常に不安定である事を前提に動く局面に入っているように見える。

### 地政学リスクは北半球に集中？

このように地政学的な緊張が高まっている時、真っ先に考えるべきはエネルギーや食料をはじめとする資源と、その輸送ルートだ。これらの資源は、価格以前に「確保できるかどうか」が問題になる。もちろん社会生活の維持に必要なのは、資源だけではない。グローバル分業の時代から



転換し、各国は自国や同盟圏内で重要な資源や生産設備を囲い込む動きを強めている。

通貨についても同様だ。「米ドルが使われなくなる」といった極端な話ではないが、決済や価値の貯蔵手段として、米ドル一択で考えることのリスクは、以前より意識されるようになった。これは通貨の優劣というより、世界経済の構造が少しずつ変わり始めていることを示している。

ここで一度、前提を整理してみたい。世界の金融市場は、歴史的に北半球を中心に発展してきた。株式市場の時価総額、主要な金融センター、主要な株価指数の構成国を見ても、米国、欧州、日本といった北半球の先進国が中核を占めている。

これは金融市場構造そのものの性質と言える。そのため、分散投資を意識しているつもりでも、実際には投資先が北半球に集中しているケースは少なくない。そして皮肉なことに、現在地政学リスクが顕在化している地域も、同じく北半球に集中している。

### 浮上する、南半球の資源国

地域分散とは、単に投資対象の国の数を増やすことではない。本来は、リスクの性質を分け、異なるリスクを取るように配置することに意味がある。その視点で考えると、南半球という切り口は一度立ち止まって考える価値がある。

南半球は、主要国間の軍事衝突の主戦場になりにくく、エネルギーや食料、鉱物といった資源の供給側に位置する国が多い。「だから安全」という話ではないが、抱えているリスクの種類が北半球とは異なるのは確かだ。

その代表例がオーストラリアである。鉄鉱石やLNG（液化天然ガス）といった資源の主要な産出国でありながら、法制度や市場の透明性が高く、先進国としての枠組みも併せ持つ。財政運営や金融政策の安定性への評価も高く、資源国の中でも独特の立ち位置にある。

さらに広げて考えるのであれば、ブラジルや南アフリカも視野に入るだろう。ただし、これらの国々は市場の成熟度や流動性、政治・制度の安定性などの点に課題がある。相対的にリスクの高い投資対象として、位置づけを慎重に考える必要がありそうだ。

\*

地政学リスクは、当たるか外れるかを予測するものではない。むしろ、自分の資産がどの前提の上に置かれているのかを見直すための材料と考えたい。北半球中心、米ドル中心というこれまでの常識を点検し、より高度な地域分散を考えてみてはどうだろうか。その時には、証券会社の持つ幅広い商品ラインアップがきっと役に立つはずだ。



■ 図表1 資源埋蔵量の国別ランキング

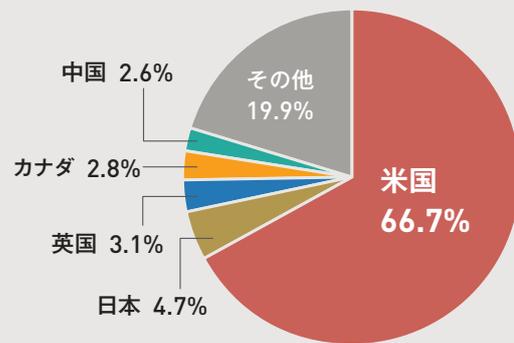
金		銅	
1位	オーストラリア	1位	チリ
2位	ロシア	2位	オーストラリア
3位	南アフリカ	3位	ペルー
4位	インドネシア	4位	ロシア、コンゴ
5位	カナダ、中国		

鉄鉱石		リチウム	
1位	オーストラリア	1位	チリ
2位	ブラジル	2位	オーストラリア
3位	ロシア	3位	中国
4位	モーリタニア	4位	米国、アルゼンチン
5位	インド		

(出所)USGS「Mineral Commodity Summaries 2026」より当社作成

■ 図表2 主要株価指数の国別構成比率



約4.9兆米ドルの資産がベンチマークとするMSCIのオール・カンントリー・ワールド指数(ACWI)の国別構成比率(2024年10月時点)。

(出所)MSCIのホームページをもとに当社作成

■ 図表3 資源国通貨の米ドルに対する過去1年間の推移

(週次、2026年2月23日週末まで、各通貨当たり米ドルの値を当初=100として推移を示した)



(出所)Bloombergのデータをもとに当社作成